

# 一年学年だより

No. 3【6月号】

令和6年5月29日発行

## 好奇心を持って、まずはやってみる

入学して早くも2か月が過ぎようとしています。CPで進路の話を書くときの真剣な表情や日々の生活から感じるの、皆さんが自分の将来に対して希望をもち、前向きに学校生活に取り組もうとしているということです。また、表現の仕方は人それぞれですが、互いに気を配り、フォローし合う姿が素晴らしいと思います。一方、日々多忙な生活を送る中で、入学当初のモチベーションを維持できなくなったと感じる人もいないでしょうか。分野は異なりますが、勉強と共通する部分もあるのではと思います、少し学生時代の話をしたしたいと思います。

私は、受験指導でお世話になった美術の先生から「自分のモチベーションは自分で上げなさい」とよく言われていました。うまくいかないときは目先の課題だけにとらわれがちですが、好きな作家の画集を見たり、実際に美術館で本物を見たり、ドキュメンタリーや関連の映画を探したり、他の教科とのつながりを見つけたりなどの行動を起こすことで突破口が見つかります。心が動かされる何かに出会うのを待つのではなく、自分から探しに行くことが大切です。自然に目にする情報は限られていて、偏りがあるものかもしれません。美術に限らず、苦手なことを我慢しながらやみくもに努力するのではなく、「好きになる」ための糸口がないか、自分を喜ばせる方法を模索してみてください。「やりたいことがない」はこれから「やりたいこと」を見つけられるまっさらな状態のことで、私にとっては羨ましくもあります。いきなり正しい選択肢を探さなくても構いません。ピットと来たものをとりあえず深掘りすることで世界が広がると感じます。何かの分野を深く追究してみて、「違うな」と思ったら他へ行けばよいのではないのでしょうか。私も美術の中で、デザインや彫刻など何科を受けるか悩みましたが、すべて試してから2年生の秋に油絵にすると決めました。

ウォルト・ディズニーの言葉に、

私はよく人から成功する秘訣を教えてほしいとか、  
どうすれば夢を実現できるかと尋ねられる。

その答えは「自分でやってみる」ことだ。

(ウォルト・ディズニー、酒井靖仁編『ウォルト・ディズニーの言葉

～今、我々は夢がかなえられる世界に生きている～』ぴあ株式会社、2012、p11)

というものがあります。好奇心を持って、能動的に！ たくさん調べて、まずは試してみてください。皆さんの挑戦を後押しします。

(102HR担任)

## 素直さという力

今まで3年生が多かったのですが、今年度は久しぶりに1年生の副担任で、毎日新鮮な気持ちで過ごしています。そろそろ高校生活にも慣れてきた頃でしょうか？ 入学時のよい意味での緊張感忘れずに、自分の可能性を最大限に伸ばせるように全力で取り組んでいてもらいたいと思います。

進路選択や進路実現といっても、まだまだ遠い話に思うかもしれません。けれども、高校生活はあっという間に過ぎていきます。何年か3年生を見ていて、希望の進路を実現した人たちには共通点があることに気が付きました。それは「素直さ」です。自分の志望校に合格した人はもちろん強い意志を持っていました。そして、強い意志を持ちながらも、柔軟に対応できる素直さも持っていました。私は「素直さ」は一つの能力だと思います。素直に受け止めようとする姿勢が成功に導くのだと思います。素直であることは、いろいろなことに心を開くことです。それを忘れなければ道は開けていきます。みなさんが充実した毎日を送れるよう応援しています！

(102HR副担任)